

令和7年度事業計画書

自 令和7年4月 1日
至 令和8年3月 31日

社会福祉法人 晃宝会

目 次

1.はじめに	1
2.特別養護老人ホーム あじさい園	2
3.ショートステイ あじさい園	5
4.医務室	6
5.管理栄養士・調理師	7
6.歯科衛生士	9
7.特別養護老人ホーム あじさい園宝	10
8.ショートステイ あじさい園宝	13
9.グループホーム あじさい園宝	14
10.グループホーム あじさい園	15
11.デイサービス あじさい園	16
12.ケアハウス あじさい園	17
13.居宅介護支援事業所	18
15.オレンジカフェ すいもん	19
16.ニコニコタクシー (介護輸送サービス)	19
17.ハーネ 中御門	21

社会福祉法人 晃宝会
理事長 松村圭祐

令和7年度 法人目標 「初心忘るべからず」

室町時代に能を大成させた世阿弥の「花鏡」の言葉です。世阿弥のいう「初心」とは、「始めた頃の気持ちや志」のことです。「芸の未熟さ」を指しています。初心者の頃の、未熟さを思い出すことにより、あのみじめな状態には戻りたくないと思うことにより、さらに精進できると世阿弥は説いています。また、若い頃の未熟な芸を忘れなければ、そこから向上した今の芸も正しく認識できるのだ。

福祉事業に当てはめますと、「長年仕事をしてきた私達が、新人さんの言動や仕事ぶりを見て、はじめの頃の未熟な自分を思い出し、今、本当に成長しているのか、思い描いた自分になれているのか、を自問自答しながら精進していきなさい。」という世阿弥のアドバイスといえるのではないでしょうか。

奈良市東部の茗荷町のあじさい園開設30周年、南肘塚町のあじさい園宝開設10周年を目前にし、これからも法人一丸となり、今までの経験や知識から得たそれぞれの事業所からの知恵を結集し、さらに進化成長を目指にして惜しみない努力を重ねたいと思います。

令和7年4月より、茗荷町808-1特別養護老人ホームあじさい園の隣接地において「オレンジカフェ あい」をオープンいたします。水門町のオレンジカフェすいもんの手作りケーキを提供し、カフェすいもん同様、ご利用者・ご家族・地域の皆様のくつろぎの場となりますよう努めてまいります。

あらためて、これまで安定運営を継続できたことに心より感謝申し上げます。言葉では言い尽くせない、職員の並々ならぬ努力と人間愛、ご利用者ご家族の温かさ優しさ、地域の皆様のご理解とご協力、たくさんの関係機関の皆さまの心のこもったご指導ご支援のおかげさまです。

平成8年「ご一緒します いい人生」。

人生の大先輩であるご利用者様に尊敬の念を持って寄り添い、幸せな日常生活を過ごしていただきたい、と一心に願い、あじさい園が始まりました。笑顔で一日一日を大切に、とあじさい園宝が始まりました。

これからも私達はその素直な思いを持続け、力を合わせて努めてまいります。

2.特別養護老人ホーム あじさい園

法人目標 『初心忘るべからず』について

あじさい園に入職して 10 年以上の職員が多く在籍をする事業所となりました。外部研修に参加させて頂き自己研鑽を積み、職員同士で伝達研修など知識や介護技術を習得してきました。しかし、長年勤めてくると慣れや緊張感が薄れてくるのも現実だと思っております。法人目標でもある「初心忘るべからず」を胸に職員はもう一度自分の行動や言動に対して責任も持った対応が出来ているか、また、初めてご利用者の方々とお会いした時の「緊張感」「胸の高鳴り」「笑顔」を思い出し、利用者様に尊厳の念を持って寄り添い安心して生活を送って頂ける様に支援してまいります。

パーソンセンタードケアのために

パーソンセンタードケアは『自分らしさ』『結びつき』『携わること』『共にある事』『くつろぎ』の 5 つの心理的要素があります。特養ではこの 5 つの心理的要素を軸に下記のように支援・援助を行います。

1 『自分らしさ』

- ・ご利用者一人ひとりが、他の誰でもない唯一の存在として、自尊心を大切にして、職員一人ひとりが笑顔と優しい心で支援・援助を行います。

2 『結びつき』

- ・ご利用者やご家族との結びつきを大切にして、慣れ親しんだ物等と繋がって生活出来る環境を作ります。

3 『携わること』

- ・小さなことでもお手伝いをして頂き、感謝される喜びや自分が必要とされていることを実感してもらい、その人らしく生活して頂ける空間作りに努めます。
- ・ラジオ体操などで体や手先を動かすことで健康増進に繋げるよう支援します。

4 『共にある事』

- ・ご利用者一人ひとりがあじさい園の中の一員であることに安心感を持って頂けるように支援います。
- ・ご利用者、ご家族、職員の思いが入ったケアプランを立案します。

5 『くつろぎ』

- ・長時間同じ体位でいいか、苦痛や不快な状況がないように些細な表情にも気を配り、苦痛の緩和に努めます。また、ご本人だけでなく、ご家族、職員などとのふれあいによって心が安心してリラックス出来る環境づくりに努めます。
- ・季節の移り変わりを感じて頂ける様な行事を計画、四季折々の行事食を味わって頂き、笑顔で楽しい時間を過ごして頂けるように支援いたします。
- ・看取りケアについては、ご家族の気持ちに寄り添い、これまでの生活で慣れ親しんだ環境を継続し、自分らしく穏やかに過ごして頂けるようにお手伝いします。医師の指示に従って苦痛を和らげながら、専門職とも連携し、心身の状況に応じたケアを工夫し、最期の時間を大切に支援いたします。

過ごしやすい空間作りのために

- 居室には思い出の品等が置けるように、ゆとりのある空間を作り、ご利用者がリラ

ックスして安全に過ごして頂ける様にします。

○緑が多く、心地の良い自然光を取り入れ、施設の中が明るく気持ちの良い空間となることを目指します。

○ご利用者に、その人らしい姿で過ごして頂けるよう整容に気を配り、職員は清潔感のある身だしなみを心掛けます。

○施設設備の不具合がある時には、出来る限り早く対応し、安全に過ごして頂ける様にします。

『職員』という環境を整えるために

○技能実習生が多くなり、職員同士の連携不足にならないように、コミュニケーションが取りやすい環境の整備に努めます。

○業務内容が多いことで長時間労働や残業の原因にならないよう業務改善を行い、また、介護ソフトの導入をすることで職員の負担軽減が出来る環境づくりに取り組みます。

○園内の湿度や温度は、業務効率に大きな影響を与える重要な要素です。

不適切な環境が続ければ、感染リスクが高くなる原因にもなりかねません。空調設備や室内の温度、湿度を定期的に確認して現状が適切であるか確認します。

○初心の立ち戻り、挨拶、丁寧な対応と思いやりのある言葉かけを行い、思いやりあふれる接遇を継続していきます。

○年間目標を軸として、毎月の目標を掲げ職員全員で達成できることを目指し、毎月の達成状況を把握します。職員それぞれのレベルに応じ助言・指導を行い意識向上・スキルアップを目指します。

技能実習生について

○1期生（特定技能）につきましては、6年目を迎えて、現場には欠かせない存在になっています。職員のサポートをうけながら、自身もスキルアップが出来るよう支援します。

○2期生につきましては、2年目を経過し、特定技能実習の試験を控える時期が近づいています。園の雰囲気に慣れご利用者の援助も出来るようになります。職員のサポートも出来るようになっています。安心して特定技能実習試験合格を目指して取り組めるよう、管理組合と連携し、学習面、生活面を支援します。

○3期生につきましては、まだ日本語の理解、会話が難しく、まだ大変な面があります。園の雰囲気に慣れ、ご利用者の援助が出来るように職員、1・2期生と連携し、支えてまいります。

安心して過ごして頂くために

○新型コロナウイルス感染症が5類になったからと言って安心できる状況ではありません。また、免疫力低下などで他の感染症にも罹患する可能性があります。気を緩めることなく感染症対策に努めます。

○出勤時、業務に入る前に手指消毒、検温、食堂・居室・廊下・車椅子など手に触れる場所の消毒を行います。

○感染状況や情報を元にマニュアルを改訂し、実際の取組に落とし込んでいきます。

○スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いを行い

1 ケア・1 手袋・手指消毒を徹底し感染症予防に努めます。

○新型コロナウイルス感染症等が蔓延した場合の事業継続計画（BCP）、非常災害時の事業継続計画（BCP）を基に、机上訓練や実地訓練を定期的に開催して、ご利用者、職員の命を守る行動が出来るように、職員の知識向上と意識改革に取り組みます。

○面会については、15 分程度での時間を区切り、密にならない程度の面会を受け入れています。感染状況などを鑑み面会の制限を行ったり、面会制限の緩和したりと状況に応じての対応を行います。

○事故防止対策については、引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行います。

○食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせて管理栄養士とも連携を図りながら、タイムリーに行えるように努めます。

○歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援します。

○新しい備品などを試し、ご利用者が快適に過ごして頂くために有益な物を積極的に取り入れます。

稼働率の安定を目指して

- ・ご利用者の体調管理と事故予防対策を丁寧に行います。
- ・入所検討会議における、次期入所者検討を効率化し、常に数名の内定者を確保しておき、年間を通じて 53 床の平均稼働を目指します。

経費節減を目指した取り組み

- ・世界情勢が不安定な状態で、全ての商品の価格が高騰している現状です。常にアンテナを張り、安価で良い物があれば都度見直し、業者や出納責任者とも連携を図り、経費節減に努めます。
- ・エアコンや電気のこまめなスイッチオン/オフにて適正使用に努め、備品を丁寧に取り扱いします。
- ・洗剤等消耗品の適量発注と無駄のない使用を行います。
- ・排泄介助物品類はご利用者の肌に直接当たるもので、安価な物を使用すると漏れ、蒸れに繋がり、交換する頻度が増えたりし、コストが掛かる要因にもなります。また、皮膚トラブルで業務効率が悪くなります。ご利用者の肌に合った物を選ぶことで、トータルとしてコスト面が減少し、業務効率が良くなることが出来ればと考えています。
- ・発注データの価格変更など定期的に更新し管理をします。また、同データを使用している他部署とも連携を図り、管理できる体制を構築します。

3.ショートステイ あじさい園

今年度法人目標「初心忘るべからず」を基に以下の取り組みを実施致します。

ショートステイでは思いやりの心と温かい対応でご利用者がストレスを感じず、生き生きと生活が出来る環境作りに努めています。ご利用者だけでなく、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるよう職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせ、より良い施設作りに努めます。また我々職員も慣れた業務だからと慢心せず、新入職員の頃の新鮮で謙虚な気持ちを忘れずに持ち続け、ご利用者に必要な介護を心掛けます。

サービス提供について

私たちはご利用者やご家族・地域の方々に支えられていることを念頭に入れ、目配り・気配り・心配りと機転をきかし、ご利用者のどんな些細なニーズにも耳を傾け、思いやりと笑顔を忘れず対応していきます。コロナ禍で季節ごとの催し物やレクリエーションを行う事が困難になっていましたが、しっかりと感染症対策をしながらご利用者の皆様に楽しく喜んで頂けるよう企画・実施していきたいと思います。また感染防止の対応や規定・制限等でご利用者・ご家族にはまだまだお手数をおかけするかとは思いますが「また利用したい」と言って頂けるように職員一同精一杯のおもてなしをしていきます。また、職員自身も新しい事にチャレンジする気持ちと向上心を持ってスキルアップに努めています。そして、常に安定した稼働率を目標に健全な運営の維持を目指します。

事故・感染症について

安心・安全に施設生活をおくって頂けるようご利用者一人ひとりの日頃の状態を把握し、身体の変化を見逃さず、迅速な対応と、ご家族・担当ケアマネジャーとの連携や医療（看護師等）との連携を密に図っていきます。職員は、常に「もしも」・「いざ」という時の対応・行動が迅速かつ的確に行えるように、適切な知識と技術の取得に努めます。常に事故防止に努め、ヒヤリハットの分析を行い、事故発生時には、報告・連絡・相談の上、早期対応及び再発防止に努めます。感染症流行時期には、ご家族にお知らせの手紙を配布し、注意を呼びかけ、また広報誌「ゆめあじさい」においても感染予防の啓発やご理解をお願いします。感染症対策では、勉強会・会議を通して、職員への意識づけを徹底し、平常時から予防に努め、ご利用者が安心して生活出来る環境作りを行います。

送迎について

送迎時のトラブルや事故がない様に、常日頃から報告・連絡・相談を意識して、ご家族・ご利用者の方々が安心・安全に利用して頂けるように努めます。事前のアセスメントを、細かく行い、周知、理解することで、事故の予防に努めます。

4.医務室

医務室の基本的な役割は、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、産業医と安全衛生委員との連携による、職員の労働災害の予防対策及び職員のメンタルケアに努めることです。

1. 健康管理

① 健康状態の把握

- ・毎日のバイタルチェック、申し送り、巡回でご利用者の健康状態を観察させて頂きます。
- ・多職種との連携により、統一した視点で日常の健康チェックを行います。
- ・異常の兆候を早期に発見し、医師への連絡、指示を仰ぎ適切な処置をさせて頂きます。

② 健康診断

定期健康診断、各種検査を行い、医師との連携により適切な看護、医療へとつなげていき、健康状態を把握させて頂きます。

③ 健康の維持

個々の健康状態に適した運動、食事、休養の必要量を判断し、介護職員と協力し実施できるようにさせて頂きます。

④ 健康教育

- ・健康についての正しい知識を普及し、老化と共に存し、穏やかな生活ができるよう、また、老いの受容を精神面から援助させて頂きます。
- ・疾病予防のための知識の普及に努めます。

⑤ 受診への対応

受診の必要性を判断し受診計画を立て、多職種の協力を得て受診につなげ、付き添い介助を行います。

⑥ 職員も心身ともに健康でなくてはならない、その為の健康管理を行います。

個人に関わる事に関しては、プライバシー保護に努めます。

2. 健康障害を持った高齢者への対応

① 疾病を持った高齢者への看護

疾病が老化とともに確実に増加し、医療を必要としています。

- ・疾病の予防と早期発見、合併症の予防
- ・疾病の早期治療援助

② 認知症高齢者への対応

認知症の高齢者は、高齢者自身が悩み苦しむだけでなく、周囲の人々を巻き込む事が多い。「異常行動」「問題行動」を起こす人としてとらえるのではなく、援助を求め、必要としている人間として、認知症高齢者に目を向ける中で、ケアの在り方を考えます。

- ・認知症高齢者の精神状態を正しく把握させて頂きます。
- ・身体、精神、環境の相互関係を踏まえます。
- ・介護職員への助言、研修を行います。

3. 感染症予防について

- ・社会全体と県内の感染症の状況を常に把握し、先手をうてるよう、各委員会と協力して、感染症予防と蔓延防止に努めます。

令和7年度法人目標 「初心忘るべからず」

看護師としての初心は、患者様に寄り添い、その人の為に尽力するという情熱や使命感を持って仕事に取り組むことです。しかし、慣れや業務の多忙さから初心を見失う事もあります。初心を忘れず患者様と真摯に向き合い、看護の質を高める為に、自分の行動や態度について振り返り、看護が十分であったか、改善出来るか考え、目標の設定、継続的な学習、また、笑顔を作る事は簡単に出来るが忙しい時に笑顔を絶やさない事はすごく難しく、不安を抱えている患者様に対応する立場であるからこそ笑顔を絶やさない看護師は貴重な存在で、その人がいるだけで安心し、職場の雰囲気も和らぎ一緒に仕事がしやすく親しまれチームワークも向上します。患者様の小さな変化に気を配り、精神面もサポートシステムーズに治療に繋げ、ご家族にも信頼して頂ける様努力してまいります。

5. 管理栄養士・調理師

【食事提供について】

栄養バランスの取れた食事をまず基本と考え、食事は必要な栄養を摂取するだけでなく、生きがいや生活リズムを整える重要なものです。安心・安全な食事を口から食べる幸せや、食に対する興味を持って頂けるよう努めます。また、美味しく楽しく食事が出来るよう、ご利用者の状態に合わせた食事環境を整えます。年間行事に適したイベント食やその季節にふさわしい特別献立、誕生日食や喫茶など、変化に富んだ食事の提供に努めます。おやつレクリエーションなどを実施し、作る楽しみが味わえるように工夫します。

普通食（常食）を基本とし、一口大・刻み・超刻み・トロミ付き・ソフト食・ペースト食など、ご利用者の摂食・嚥下機能に適した食事の提供に努めます。認知症の進行や終末期を迎えて食事摂取が困難なご利用者に対しては、補助食品の提供や、嗜好に沿った食事提供を行います。月1回給食会議を開催し、より良い食事を提供するために反省・改善を話し合います。

物価の高騰が続いている中でも、食材の選択、調理法の工夫、味付け、盛り付け、彩り、切り方などに気を配り、ご利用者が食べやすく、目でも楽しめる食事提供を実施します。食数の管理を徹底し、フードロスの削減に取り組みます。また、少しでもコストダウンが行えるよう、業者と連携を図ります。

【衛生管理・感染症対策について】

施設において感染症や食中毒の発生、また蔓延しないよう、食中毒・感染症対策マニュアルや大量調理マニュアルに沿った作業が出来るよう努めます。感染症の発生しやすい時期の前には予防と対策について職員研修を行います。

各部署と情報共有を図り、感染症などによる体調不良者が出了場合、使い捨て容器を使用するなど、厨房への感染源持ち込みを防ぎ感染拡大の予防を行います。

厨房内の清掃はもちろん、毎日の冷凍庫・冷蔵庫の温度チェックや定期的な水質検査

を実施します。食材については納入時の鮮度・温度チェックをし、適温で管理します。また、職員の体調管理や、手洗い、手指消毒などの衛生管理の徹底を行い、安心して食事を提供が出来るよう努めていきます。

【BCPについて】

自然災害や感染症発症時にも安心・安全な食事が提供出来るよう、非常食や使い捨て容器を備蓄し、ローリングストックにより無駄が無いよう常に見直しを行います。また、刻み食やペースト食など、噛む力や飲み込む力が低下しているご利用者にも安全に食べて頂ける食事形態の非常食を用意します。実際の災害時を想定し、手間がかからず少しでも美味しい食事が提供できるよう、種類や内容を吟味していきます。BCP委員会とも連携し、職員が災害時に調理できるよう定期的に研修会を開催します。

【食事形態一覧表について】

咀嚼・嚥下が困難なご利用者に、安心・安全で美味しく食べて頂くためには、ご本人にあった食事形態で提供することが大切です。あじさい園で提供されている食事形態を食事形態一覧表にまとめ、ご家族や医療関係者の方に、食事形態の参考として活用していきます。また、ご利用者の入院時や入所面接などの際に、食事形態一覧を用いて情報提供することで、その方にあった食事を提供することに役立てたいと考えています。

【栄養ケアマネジメントについて】

あじさい園では、特養ご利用者全員に対し栄養ケアマネジメントを行っています。担当者会議を実施し、多職種からの情報提供・意見交換により、身体状況・嚥下機能・嗜好に沿った食事内容・食事形態・補助食品など適宜検討します。ご利用者の状態を把握し、一人ひとりの状態に応じた「栄養ケア計画書」を作成し、ご家族や身元引受人に説明・同意を得ます。

ご利用者の食事時間に、ミールラウンド（食事中の利用者への訪問）を行い食事の様子を観察します。食事摂取量の把握及び、むせ込み無く食べられているか、安定した姿勢が保たれているかなど、食事状況の変化に気が付けるよう取り組みます。摂取量が低下しているご利用者については、食事内容の調整や、栄養補助食品を取り入れるなど柔軟に対応します。口から安全に食事が摂取できるよう、ご利用者の咀嚼・嚥下状態に合わせ、食事形態の内容の見直しを行っていきます。疾患のあるご利用者には、医師の指示のもと、その病態に応じた療養食を提供します。令和7年度も、栄養状態の改善・健康維持ができるよう支援いたします。

【初心忘るべからず】

何かを新しく始める際、始めた頃の謙虚で真面目な気持ちを忘れてはいけないという戒めの意味になっていると思います。一方で、成長したからには初心のままでいてはいけないとも思うのです。謙虚な気持ちと、初心のままでいてはいけないという向上心を忘れず、長年の経験や知識を有効に使いたいと思います。

私たちは、ご利用者が穏やかに過ごして頂けるよう「食」を通して関わっています。日々の食事を喜んで頂けるよう、業務に慣れているからと慢心せず、丁寧な仕事を心掛けたいと思います。ご利用者の状態は日々変化します。要望には迅速に応え、ご利用者やご家族に安心感を持っていただけるよう努力してまいります。

あじさい園は来年、開設30周年を迎えます。勤続年数に関係なく意見交換を行い、こ

これまでにたくさん培った経験を活かし、新たな気持ちで初心を忘れず努力し、成長し続けたいと思います。

6.歯科衛生士

法人目標 「初心忘るべからず」

あじさい園開園当初より、晃宝会は口腔ケアに力を入れてまいりました。口腔ケアは狭義の口腔ケア（ブラッシングなど機械的な清掃）と広義の口腔ケアがあり、晃宝会がすすめているのは広義の口腔ケアです。摂食、嚥下、咀しゃく、発音、審美性の維持や、歯科治療、リハビリテーションが大切で、唾液分泌を促す、しっかり咬む、ゆたかな表情と笑顔、など心身の健康保持には欠かすこととはできません。

80才になっても自分の歯を20本維持しましょうという「8020運動」は、1989年スタート、そのころの達成率は10%弱でしたが、平成29年には51.2%となりました。その中でもよくかめている人の割合は少なくなります。平成28年度には、高齢者の虫歯や歯周病が増加していることも明らかになりました。

オーラルフレイル予防で健康長寿を目指す。つまり、口から食べることを中心とした、口腔機能の低下予防です。「お口は人生の出入り口」とも言われ、食べる、しゃべる、呼吸する、表情をつくる、とさまざまな働きがあります。歯を大切にすることはもちろんですが、筋肉である口唇、舌、頬の機能向上も大切です。

オーラルフレイルとは、高齢に伴い、歯数や口腔機能の低下、さらには、社会的、精神的、身体的な能力の低下も重なり、さらに弱くなった状態をいいます。オーラルフレイルは可逆的であるため予防が大切です。健康長寿のための3つの柱としては、栄養（食、口腔機能）、身体活動（運動、社会活動）、社会参加（就労、余暇活動、ボランティア）です。歯科衛生士としての専門的な口腔ケアの介入により誤嚥性肺炎等の予防を実践し、心身の健康を維持できるよう努めます。

7.特別養護老人ホーム あじさい園宝

○法人目標「初心忘るべからず」について

令和7年度は、あじさい園 宝開設10周年を迎えます。ユニット型の特別養護老人ホームとして、地域のなかでご利用者が自分らしく安心して生活できる場所となるよう、また笑顔で一日一日を大切にという想いをもって歩み始めました。高齢者福祉の現場経験が少ない職員も、ご利用者のために自分にできることは何かを精一杯考えながら知識と技術を磨いてまいりました。この10年間にも、施設を取り巻く状況は変化し、ご利用者やご家族がそれぞれのニーズに応じて施設を「選ぶ」、より良いサービスを「選ぶ」時代になっていることを実感しております。私たちは、高齢者福祉の専門職としてこれまで培ってきた経験を「選ばれる施設」づくりに活かし、時代とともに進化し続けたいと思います。そして、成長・進化するために職員一人ひとりがこの仕事を始めた時のやる気・緊張感・向上心を忘れずに精進してまいります。

1. 個室ユニット型施設としての個別ケアの充実

①ご利用者が望む暮らしが実現できるケアプランの作成と自立支援

ご利用者が抱える生活問題は一つではなく、複数存在します。健康状態、ADL、日々の気持ちの変化など、生活全般の観察を通じた現況の把握と分析を行い、意思決定の機会が少しでも増えるようなケアプランの作成を目指します。また、ケアカンファレンスでは、他職種連携によって、より専門的、多角的な視点から意見交換を行い、ケアプラン作成に役立てます。特に、介護・医療・栄養・機能訓練において、専門職がご利用者お一人おひとりの状態を科学的に分析し、根拠に基づいたケアプランの作成を目指します。作成されたケアプランは、フロアの全職員へ周知徹底を図り、統一したケアの提供に努めます。

②24時間シートの活用

入居前のご利用者の生活や人とのつながりを大切にし、今までの暮らしの延長線に施設での生活があることを理解し、お一人おひとりの生活リズムに寄り添う24時間シートを活用したケアの提供に努めます。安全で健康的な生活を送っていただくために、日常の記録とケアの提供の連動性にいつも気を配ります。

③快適な入浴及び排泄ケアの実践と清潔保持

入浴は、良い気分転換の一つであり、楽しみにされているご利用者が多いです。心身の状態に応じて個浴、機械浴といった入浴方法を提案し、安心、安全に入浴していただくことで、心身のケアに良い効果が期待できます。また、高齢者の多くは現役世代より活動量が低下するために睡眠の質が低下しやすい傾向にあります。入浴は、ご利用者にとって運動の代わりとなり、心地よい疲労感が自然な入眠を促し、QOLの向上につながります。そして、身体を洗って皮膚を清潔に保つことは、感染症予防や褥瘡予防にも効果があることから、介護職と医療職が連携して質の高い入浴ケアを行います。

ご利用者の排泄リズムに合わせたケアと、適切な排泄用品の選定をいたします。失禁率を減らせるよう、記録を分析・検討し、ご利用者の不快感と職員の負担軽減に努めます。質の高い排泄ケアを提供することで、夜間の睡眠を十分に確保し、健

康的な生活を送っていただきます。また、トイレでの自然排泄が継続できるように、自立支援いたします。

④心身の健康につながる食支援と栄養ケアマネジメント

管理栄養士による、献立作成により、お一人おひとりの健康状態に合わせた食事を提供いたします。栄養ケアマネジメントを実施し、ご利用者の日々の健康管理に、食事面でのサポートをさらに充実させます。低栄養のリスクを3段階で評価し、リスクが高いご利用者には2週間ごと、中程度のご利用者には4週間ごと、リスクが低いご利用者には概ね3か月ごとにアセスメントを行います。そのアセスメントに基づき、管理栄養士が介護職員とカンファレンスやミールラウンドを行い、口腔内の状態や嚥下の状態等を考慮した上で、食事形態をより細かく見直していきます。住み慣れた施設で最期まで穏やかに生活していただくためには、看取りケアを行う際の栄養ケアや食支援が非常に重要です。ご本人やご家族の意向を把握し、その人らしい生活を納得した形で送っていただけるよう支援いたします。

献立には手作りのメニューを多く取り入れ、園庭で収穫した野菜を召し上がっていただくことで、ご利用者にとって毎日のお食事が楽しみになるよう支援いたします。好きなものを食べることは、心身の健康にも繋がります。アンケートや日頃のお声を献立に反映したり、人気の高いメニューで「選べる献立」を実施し、自己決定の機会を大切にします。ユニットケアの特徴を活かして、調理中の香りや、目の前での盛り付けなど、五感でお食事を味わっていただけるように、介護職員と管理栄養士、調理員が連携して食事提供を行います。看取りケアの際も、無理なくご自分のペースでお好きなものを召し上がっていただき、最期までその人らしい暮らしが継続できる食支援を行います。

⑤リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組の推進

当法人では、「口腔は人生の入口」であり、全身の健康管理に口腔ケアがとても重要であると考え、歯科衛生士による専門的口腔ケアや介護職員による日常の口腔ケア、口腔リハビリテーションを積極的に行い、口腔機能の維持・向上を図り、オーラルフレイルを予防します。歯科医師による定期健診を実施し、必要に応じて歯科治療も行います。また、口腔内を清潔な状態に保つことで、誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症を予防します。そして、栄養ケアマネジメントと口腔機能の維持・向上がご利用者の食支援につながるよう、LIFEシステムやICTを活用し、一体的な取り組みを推進いたします。

⑥疾病の重症化予防と医療的ケアの充実

ご利用者の心身の健康維持のために、毎日のコミュニケーションを大切にし、体調面での相談、お話ししやすい環境を整えます。また、体調変化の気付きを大切にし、必要な際は迅速な病院受診ができるよう、嘱託医や協力医療機関との連携を強化します。

ご利用者、ご家族が、病院ではなく暮らし慣れた施設での生活が継続できることを望まれるケースが増えており、最期まで自分らしく暮らしたいというニーズに応えられるよう、多職種が連携して「看取りケア」を行います。その中で、しっかりとした医療知識と技術を職員が身に着け、医療的ケアの充実を図ります。

2. 清潔・安全・快適な生活環境の整備

基本理念である「清潔」について、職員一人ひとりが常に意識し、ご利用者やご家族が利用したいと感じていただける環境を整備いたします。感染症対策は、初期対応が非常に重要であり、感染源ができるだけ持ち込まないよう、多職種が連携してスピード感を持って対応いたします。

また、心身の状態に合わせた介護機材を整備し、職員一人ひとりが適切に使用、管理できるようにいたします。

- ①共用スペースの定期的な整理・整頓の実施
- ②共用スペースや居室の定期的な消毒の実施
- ③介護機材の定期的な洗浄、消毒の実施
- ④備品や家電等のメインテナンス
- ⑤感染症対応時の物品の確保、整理整頓の実施

3. 行事への参加を通じて、心身ともに健康で潤いのある日常生活を

ご利用者に社会とのつながりや季節感を感じる生活を送っていただけるよう、行事運営を積極的に行います。ご利用者に安心して楽しんでいただけるよう、健康体操、コンサート、自治会のラジオ体操、こども園との交流会など、様々な行事運営を行います。

4. なりたい自分に成長できる働きやすい職場へ

より質の高いサービス提供を維持・継続できる施設運営を行うために、引き続き職員の資格取得支援や研修を充実させます。実務者研修修了や介護福祉士国家試験合格等、具体的な目標設定をし、スキルアップを目指します。無資格未経験の職員は、まず認知症介護基礎研修を受講できるよう支援します。また、認知症ケアの質を向上するためには、認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講機会を増やすとともに、既に介護福祉士資格を有する職員については、ユニットリーダー研修や介護支援専門員試験等、キャリアアップにつながる資格取得を目指します。自ら学ぶ姿勢を持ち、なりたい自分になれる、長くやりがいを感じながら働ける職場づくりを目指します。

人材確保については、年齢や経験を問わず、働く意欲がある方を積極的に募集し、ともに学び、働きながら資格取得を目指すことができる環境を整えます。また、外国人技能実習生やEPA介護福祉候補者等の外国人材を広く雇用し、日本語能力向上のための支援、資格取得支援を行い、介護福祉士として長く働いていただける職場づくりを目指します。

- ① 資格取得支援
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 丁寧での的確な言葉遣い
- ⑤ ライフスタイルに応じたシフト体制

5. ICT を活用した介護記録等の効率化と情報の分析

ICT を活用した介護記録により、記録内容の職員間でのばらつきをなくして標準化するとともに、作業時間の短縮をはかり、ご利用者とかかわる時間を今以上に増やします。また、ケアプランと栄養ケアマネジメント、口腔に関する LIFE のフィードバックを活用し、科学的介護を実践いたします。

6. 地域と連携した災害への備え

BCPに基づく防災・感染症対応訓練や福祉避難所開設訓練を行い、“地域の安心拠点”となるよう、職員一人ひとりが地域資源であることを自覚して行動いたします。

自治会との合同防災拠点として、また、ラジオ体操やサロン活動などの地域行事の拠点として、ご家族や地域の皆様と、顔の見える関係づくりと施設運営を行います。また、職員間、関係機関との連携体制と、迅速な情報共有の手段を日頃から構築し、災害への備えを強化します。

広報誌「のこのこたより」を中心に、地域拠点として皆様に広く知っていただきための情報発信も行います。

7. 日頃からの感染対策

感染症発生時に職員一人ひとりが不安なく迅速に行動できるよう、委員会の開催、指針の整備、研修の実施とともに、感染症発生を想定した訓練を定期的に実施し、組織としての機能を高めます。また、発生から収束までの一連の対応の振り返りを行い、知識と技術の習得に努めます。

8. 介護保険施設機能の地域への展開とご利用者の確保

申し込みから面接、入居までの流れをスムーズにし、新規入居者の確保に繋げます。専門機関として、要介護、要支援を問わず、すべての介護保険利用者に適切な情報提供ができるように努め、電話や窓口応対を丁寧に真心込めて行います。そして、日頃より待機者情報を整理・更新し、満床継続と退居後の空床日数14日以下を目指します。

9. 法人内事業所の連携強化

ご利用者、ご家族のニーズに応じて、法人内の事業所が連携してサービス提供できるように努めます。

茗荷町のあじさい園開設30周年、南肘塚町のあじさい園 宝開設10周年を迎えるに当たり、法人内事業所それぞれの長所を活かし、互いに学びを深め、社会資源としての役割を果たせるよう精進してまいります

8.ショートステイ あじさい園宝

開園から10年の節目を迎えました。これまでにご縁をいただいた沢山のご利用者、連携いただきました多くの居宅介護支援事業所の皆様への感謝の気持ちを忘れず、これまでより一歩前進してご本人、ご家族の期待に応えられるよう、気持ちを引き締めてまいります。また、支援の原点を振り返り、ご利用者的人格を尊重し、常に相手の立場に立ってきめ細やかなサービスの提供に努めます。

自分らしく元気に過ごしたいというご希望に添えるよう、ご家族との連絡を密にし、生活の様子が見える、開かれた施設運営を行います。また医療機関とも適時連携し、医療的ケアのニーズにも可能な限り応え続けられるように多職種が連携して支援いたします。

1) ご利用者の立場に立った介護サービスの提供

認知症への理解や接遇マナーの向上に努め、ご利用者ファーストの質の高いサービスが提供できるよう、人的体制の強化を図ります。利用前の面談時には、ご本人のご希望を丁寧に伺い、ご家族の協力のもと心地良い環境づくりと安心できる関係性を築きます。

2) 残存機能の維持・向上

ご本人の身体状況に応じた生活環境の整備に努め、運動機能低下による事故防止を図ります。また行事への参加、リハビリテーションを通じて、日常生活に必要な身体能力の維持に努め、施設ならではの楽しみのある暮らしを目指します。

3) 地域機関等との情報の共有及び連携の強化

介護支援専門員や介護サービス事業所、医療機関をはじめ、地域関係者と連携を図りご利用者が安心して生活できる環境整備につなげます。

9.グループホーム あじさい園宝

法人目標「初心忘るべからず」について

グループホームあじさい園 宝では、開園2周年を迎えるに当たり、ご利用者お一人おひとりに寄り添った温かい関わりができるよう、毎日の気づきを大切にし、職員自らが考えて行動します。ご利用前の生活、人間関係を大切にし、行きたい場所に行きたい人と出かけることができ、楽しみを共有できるように支援いたします。また、自分はこう在りたい、こうしたいというご利用者の言葉に耳を傾け、ひとつでも多く実現できるように支援いたします。法人内の他事業所とも連携し、ご利用者と「ご一緒しますいい人生」を実現できるよう、毎日の生活に寄り添います。

ご利用者に安心・安全な生活を送っていただくために

ご本人の生活リズムを大切にし、個別支援を行います。心身の健康を維持するためには、良質な睡眠が必要です。眠りスキャンを活用して夜間のトイレ誘導の声掛けを行い、良質な睡眠時間を確保し、日中を活動的にお過ごしいただきます。

また、ご利用者の日々の様子をご家族にこまめに連絡することで、ご家族との信頼関係を構築し、安心・安全な生活の場となるよう努めます。ご利用者にとってより良いケアが行えるよう、ご家族にも開かれた場所となるよう努めます。

事故防止・感染症対策について

ご利用者に事故なくお過ごしいただくために、日々の生活の中にリハビリテーションを積極的に取り入れます。健康体操や食事前の口腔リハビリテーションを続けることで、筋力低下を防ぎ、転倒や誤嚥を予防します。また、小さな気付きを大切にし、ヒヤリハットから事故の予測を行い、事故防止に努めます。事故が起きた際には、迅速な検証と対応ができるよう職員研修を行うとともに、職員同士のコミュニケーションと報・連・相を徹底いたします。

共同生活の場では、感染症が発生すると広がりやすい環境にあるため、感染症予防のために、ご利用者の日々の健康観察を介護職と医療職が連携して行います。また、初期対応が重要であり、迅速な感染経路の特定、適切な感染防止対策、人員配置を行い、感染症の早期収束に努めます。また、ご利用者のADLの低下を最小限に抑えられるよう、状況に応じた柔軟な対応を心がけます。

運営推進会議・地域交流について

地域のみなさまとお顔の見える関係作りができるよう、研修を交えた運営推進会議を開催いたします。ご利用者にもご参加いただき、園での生活について忌憚なくお話ししていただきます。ご参加いただいたみなさまと、園での生活の様子や地域課題について様々

な意見交換をし、地域に根差したグループホームとなるよう、職員一人ひとりが考え、支援に活かします。地域防災訓練、自治会のラジオ体操、サロン活動など、可能な限り地域のみなさまと直接お会いする機会を多く持ち、地域に開かれた施設運営を行います。

10.グループホーム あじさい園

法人目標「初心忘るべからず」について

言葉にして言うのは簡単ですが、日々の業務の中で、就職時の緊張感をもった気持ちや新鮮さは忘れがちです。経験を積んでいくことは大切なことですが、慣れや慢心から自分なりの行動パターンになりがちなので、目標を自分自身に言い聞かせることが大切であると考えます。

毎日同じ業務のなかでも、常に新たな課題に取り組む姿勢も忘れず、チャレンジ精神を持ち成長につなげていきたいと思います。ご利用者は今どんな生活を望んでおられるのか、また、ご家族はどんなお悩みを抱えておられるのか、事情は様々ではありますが、目を背けずに寄り添い、意向に沿える努力を怠らずに精進していきたいと思います。働きやすい職場づくりを通してご利用者の笑顔が多く見られますよう努力を積み重ねてまいります。

運営推進会議について

今年度も感染症の発生時には、電話や書面での開催となるかと思いますが、平常時には対面での開催を予定しております。顔を合わせて意見を頂戴し、意見交換することで地域の皆様の貴重なご意見を運営に取り入れていきたいと思います。

感染症の取り組みについて

感染症はなくならないため、感染症発生時には感染の被害を最小限に抑えるよう求められます。感染症に対する抵抗力の弱い高齢者が共同で生活する場であると言う事を再認識し、普段より手洗いや消毒の対策を実施するとともに感染症発生時には拡大防止のため、迅速、適切に対応を図るようにします。またそのために、職員一人ひとりはマニュアルを熟知し研修を重ねることでとっさの時に自ら考えて動けることを目標とします。

環境の整備について

ご利用者が安全に快適に日々の生活を過ごすことができるよう居室や共用スペースを見直し環境を整えたいと思います。

今一度ご利用者の視点に立ち返り、清掃や消毒をはじめ、使用される物品等の見直しを行い、施設内の安全性を高めながら心地よい空間、時間を提供できるよう努めます。

11.デイサービス あじさい園

法人目標 「初心忘るべからず」

新しいことをはじめたときの意気込みや熱意、謙虚さを忘れてはならないといわれますが、本来は、人がはじめて真理を探究し、その道に進むと決心した時の志をあらわしています。つまり最初の決心や志が大切で、その素直な気持ちを忘れずにつとめてまいります。また、あじさい園デイサービスでは、ご利用者一人ひとりの意思・人格を尊重し、ご利用者の立場に立つ事で、慣れ親しんだ地域でいきいきと生活ができるように支援致します。様々なニーズに対応できるよう、職員の意識向上、技術・知識の向上に努めます。

重点目標

地域社会の理解と協力を得る為、地域関係団体や、居宅支援事業所、包括支援センターとの連携を引き続き行います。

職員が意欲を持って働ける環境づくりに努め、一丸となり同じ目標に向かって努力する姿勢を大切にします。

専門職としての知識を研磨し、質の高いサービスの提供に努め、稼働率70%以上を目指します。

具体的なサービス内容

① 新規ご利用者への援助

ご利用者・ご家族のニーズを事前にしっかり聞き取り、一人ひとりに沿ったサービスを提案します。

② ケアプランに基づくケアの実施

評価を行い、問題点の解決に努めます。

③ ADL/QOLの維持向上・レクリエーションの実施

ご利用者が持つ能力を引き出し、その人らしい生活の実現に努めます。
楽しみある生活に導きます。

④ 勉強会・研修の実施

ご利用者やご家族の思いが尊重され、穏やかに過ごして頂けるよう、職員の意識・観察力・行動力の強化を図るため、研修会を実施します。

⑤ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症は5類に引き下げられましたが、感染症対策は継続しています。培った知識を活かし、今後もご利用者が安心して過ごせるよう環境整備を行います。

12.ケアハウス あじさい園

令和7年度法人目標 「初心忘るべからず」

今年あじさい園は創立29周年を迎える、30周年目前となります。

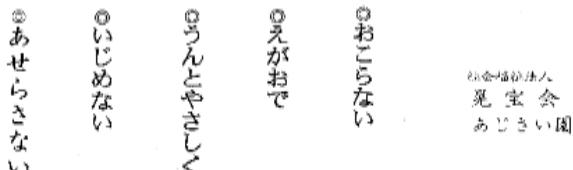
この機会に今一度職員一人ひとりが初心に返り、運営理念・基本理念を心に刻み、介護の基本「あいうえお介護」を再認識する事が大切です。

ご利用者のみなさんの体調やご気分は毎日同じではなく、その日その日で変化があります。ご利用者が安心して心穏やかに過ごして頂けるよう、お一人おひとりのお身体の状況や思いをくみ取り笑顔で寄り添います。

その実現のために、私達職員は問題点を改善し、「初心忘るべからず」の精神で、「あいうえお介護」で対応し、雰囲気の良い健康寿命の長いケアハウス作りに努めます。

平成28年度目標

「あいうえお介護」



安心

ご利用者が不安やストレスをためず心穏やかに安心してお過ごし頂けるよう、職員は「あいうえお介護」を実践しご利用者と笑顔で接し、コミュニケーションをとりながらお話を傾聴致します。

健康

ご利用者がいつまでもお元気でお過ごし頂けるよう、体操や脳トレーニングなどの場を継続して提供しフレイルを予防していきます。また、日頃からお身体の状態を観察しちょっとした変化にも早期に気付き専門職につなぎます。

環境

職員はご利用者が安全に日々お過ごして頂けるよう、事故の起こらない生活環境の維持整備に努めます。

チームワーク

職員は、ご利用者・ご家族・職員同士・他部署などチーム連携で仕事が成り立っている事を理解し、情報や問題点をチームで共有することにより業務が円滑に進むよう努めます。

運営

月平均入居者27名、平均稼働率90%を目指します。

13.居宅介護支援事業所

法人目標「初心忘るべからず」を踏まえ、ご利用者、ご家族、一人ひとりに寄り添った支援が行えるように下記の点に力を入れ支援提供に努めてまいります。

① 感染予防・災害時対策等、事業所運営に必要な対策を講じる。

- ・感染症対策（定期的な検温、手洗い、うがい、手指消毒、換気加湿、事業所内の消毒、3密の回避）を引き続き実施する、またスタンダードプリコーションを徹底する。

- ・災害時においてはSNS等を用いて職員の安否確認を速やかに把握できるようにする。

- ・災害発生時における利用者の安否確認の手段を日常より把握し、事業所内で共有する。

② 安定した事業所運営の為、各職員の担当件数を月35件を目標と致します。

③ 介護支援専門員としての資質向上・個々の職員のケアマネジメント力の向上に加え、介護支援専門員業務を遂行するため、積極的に外部研修会に参加し必要な知識・業務スキルの向上を図る。

④ 働きがいのある職場

- ・見学会の一員としての自覚を持ち他部署と積極的に連携を図る。

⑤ 地域との連携を深める

- ・ご利用者、及びご家族の思い、意向を踏まえ意思決定を尊重したケアプランを作成していく。住み慣れた自宅や地域で生活ができるように主治医との連携を密にし、介護保険サービス、包括支援センター、行政サービス、インフォーマルサービス等、多様な資源を活かす事ができるよう支援を行う。

- ・困難事例や独居・認知症のご利用者の支援については日頃より事業所内で情報共有し、迅速に対応できる体制を整え、実践する。

法人目標「初心忘るべからず」について

「初心忘るべからず」とは、「物事に慣れると慢心してしまいがちだが最初の頃の志を忘れてはいけない」という意味で知られています。同じ仕事や業務を繰り返して年数を重ねていくと慣れに繋がり気が緩んでくるものです。気が緩んでもミスや失敗が起きやすくなるのでご利用者、ご家族、他事業所に迷惑をかけてしまうことになります。そのため、介護支援専門員一年目の右も左も分からぬ初任時の気持ちを忘れず、日々の緊張感を持ち、周囲に対し謙虚な気持ちで経験年数を重ねても初心に戻って勉強する姿勢で取り組んでいきます。初心の頃の気持ちを忘れず、今の置かれている現状に満足せず日々向上心を持ち続け、自らの成長に繋げられる姿勢をもって今年度は業務に望んでいきたいと思います。

15.オレンジカフェ すいもん

法人目標 「初心忘るべからず」

「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会の地域貢献事業の一環として認知症カフェの運営をして、晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごし、地域の皆さまが理解をした上でお互いさまの気持ちで受け入れて下さり、みんなで仲良く暮らせる町づくり、つまりは、共生社会を目指しています。認知症は多くの人にとつて身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる場づくりをしていきます。

オレンジカフェすいもんは、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩3分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中になります。掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフと一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気を満喫していただいています。地域住民の皆さん、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場となっています。歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いがあり、心身の健康を維持するためには、なくてはならない通いの場です。

①感動と笑顔で心はポカポカ

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、けんぞう俱楽部の介護予防体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、トント造形教室、運営推進会議等、活発な活動を日々継続しています。

②パティシエ手作りのおいしいケーキ

ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、抹茶のケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ババロア、ショートケーキ、レモンケーキ、ティラミスケーキ、アップルパイ、フルーツロールケーキ・・・。パティシエ手作りの楽しいケーキを日替わりでご用意、「すいもんのケーキが好き」と言って下さるファンの方も増え、楽しくゆっくりしていただけるよう引き続き努めます。

③懐かしさとパワースポット

掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、明治ガラスからゆらいで見える庭も楽しめます。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。

16.ニコニコタクシー（介護輸送サービス）

法人目標 「初心忘るべからず」

ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりの気持ちに寄り添い、悩みや困り事、心配事等、会話の中から汲み取り、介護支援専門員や医療、福祉、保健等の専門職との連携を

スピード一に行いサービスを提供いたします。ご利用者はもとより、ご家族の心身の健康を守る意識で地域共生社会の実現に積極的に取り組んでまいります。

また、地域包括ケアシステムをすすめる中で、奈良市東部山間地域における在宅での生活を支えるためのタクシー事業においては、要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者はホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全・安心なサービス提供を心がけます。

ご本人やご家族から信頼をいただけるよう、また地域の皆様に常に安心を提供し、対応していくためには、サービス提供者として心身の健康に留意する。職員間においても、お互いに声をかけあい協力、共有することを大切にします。急発進や急停車は厳禁とし、制限時速を厳守し、安全・安心な運転をいたします。

17.ハーネ 中御門

グループホーム「ハーネ中御門」は、開所4年目を迎え、法人目標である「初心忘るべからず」を胸に、ご利用者が安心して暮らせる環境を維持し、支援の質を高めることを目指します。令和6年度にはご利用者2名の退所がありましたが、新たに2名が入居し、施設の稼働率が向上しました。さらに、3月1日には新たに1名が入居し、定員10名と満床になります。

令和7年度の運営方針

(1) 初心を忘れない安定した運営の維持

- ・開所当初の理念を大切にし、ご利用者一人ひとりに寄り添った支援を提供する。
- ・定員10名を維持し、ご利用者が快適に過ごせる環境を整える。
- ・新規入居者のスムーズな適応をサポートし、安心できる暮らしを支える。

(2) 利用者支援の充実と原点回帰

- ・初心を忘れず、ご利用者のニーズに寄り添い、日中活動の充実を図る。
- ・個別支援計画の見直しを定期的に行い、ご利用者が自分らしく生活できる環境を提供する。

(3) 職員体制の強化と初心の再確認

- ・職員の業務負担を軽減し、支援の質を向上させるため、勤務体制を見直す。
- ・研修の実施やスキルアップ支援を行い、職員が初心を忘れずに専門性を高められる環境をつくる。

(4) 地域との連携強化と初心の共有

- ・地域住民や関係機関との連携を深め、ご利用者の社会参加を促進する。
- ・地域イベントへの参加機会を増やし、初心を大切にした温かい交流の場を提供する。

令和7年度の目標

1. 稼働率の安定維持と初心に立ち返った運営の実施
2. 利用者の生活の質向上（個別支援の強化と寄り添い支援）
3. 地域とのつながりを深める取り組みの推進と初心の共有

令和7年度も、「初心忘るべからず」をテーマに掲げ、ご利用者が安心して暮らせる環境を提供し、職員が支援しやすい職場環境を整えることを目指します。

開所当初の理念を再確認し、初心を大切にしながら、地域とともにご利用者一人ひとりの幸せを支えていきます。